

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 黒崎中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

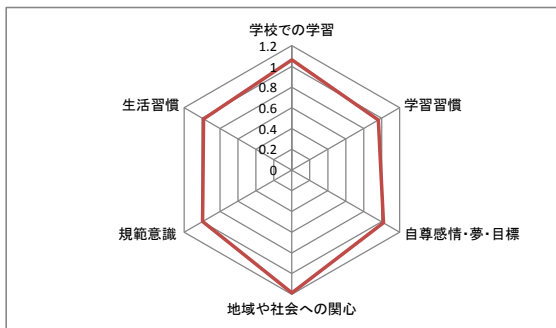
- (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	漢字を含め基礎的な学力が身につけている。目的に応じて必要な情報を捉えることができるようにしていく。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることができていた。漢字を文の中で正しく使うことができていた。	
	努力が必要な問題	相手や場面に応じて適切に敬語を使えるようにする。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	話合いの意図を捉え、上手に話し合いができていた。目的に応じた文章が書けるようにしていく。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	話合いの参加者として、問題の意図を正しく捉えることができた。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書く。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	十進位取り記数法、除法の意味理解ができていた。割合、百分率の意味理解を深めていく。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	小数の除法の意味について理解している。	
	努力が必要な問題	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	見通しをもち道筋を立てて考察する力、説明する力が身に付いてきている。いろいろなものの中から条件に合ったものをみいだしていく力をつけていく。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる。	
	努力が必要な問題	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる。	
理科	全体的な傾向や特徴など	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	ろ過の適切な操作方法を身につけている。	
	努力が必要な問題	人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の宿題をし、自分で計画を立てて勉強することができる。しかしながら学校の授業以外の普段(月～金)1日当たりの勉強時間が短い。</li> <li>「朝食を毎日食べていますか」では全国平均より下回っている。</li> <li>地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持ち、地域の行事に積極的に参加している。</li> </ul>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>◎ 学力向上のための特設時間の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝自習(月…読書タイム、水…国語タイム、木…算数タイム)全校で一斉実施。実施内容は、児童の実態に合わせ各学年で取り組む。(暗唱詩集「ひまわり」の活用・百人一首・漢字テスト・試写・学力学習状況調査過去問題やアシストシート等・表現ツールを育成する問題等)</li> <li>読書習慣定着のための環境づくり 「この本 読もう」(国語科の教科書に紹介してある本)の本を学年ごとに紹介し、読書習慣の定着化(読むことへの抵抗を減らす)を図る。</li> </ul> <p>◎ 「思考力・表現力」(書く力や伝え合う力)の向上を図った授業づくり</p> <p>資料や図など、根拠をもとに自分の考えを分かりやすく表現する活動や話し合い活動を通して、数理のおもしろさを実感できる授業づくりにこれまでと同様、取り組む。児童の考えの深まり・広がりや表現したものに対する評価の在り方やノート指導に対する研修を行い、全職員での共通理解を図った上で実践していく。また、児童の思考の深まり・広がりが感じられるノートの掲示を月2回行う。そのことにより、児童のノートづくりへの意欲向上を図っていく。</p>
---

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>◎ 家庭学習(時間、学年別、内容)についてのプリント配付による啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習時間(1・2年30分、3・4年45分、5・6年60分)の実施。</li> <li>自主学習(3・4・5・6年)において、「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、学習への計画性や自主性を育むようにする。</li> <li>北九州市学力定着サポートシステム・アシストシートの活用(冬休み、春休みの宿題)を行い、児童の基礎的・基本的な学力の定着を図る。</li> <li>学校だよりなどで生活習慣・学習習慣改善の啓発を行う。</li> </ul> <p>◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組を保護者へ周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりやホームページで結果と取組を説明し、家庭との家庭学習に対する協力体制を整える。</li> </ul>
---